

国際・災害対策委員会 基本方針（案）

国際・災害対策委員会 委員長 船津 和弥

1 昨今、**新型コロナウイルス感染症**のパンデミックにより、人と人との密なコミュニケー
2 ションが制限されている中で、**国際交流事業**において従来の形式を用いた交流を推し進め
3 て行きたい反面、見直された手段オンラインを使った交流も視野に入れた取り組み**もしつ**
4 **つ**災害においても、**10**年前の東日本大震災を始め、熊本や佐賀でも災害が多発している
5 現状があり、**一般社団法人佐賀青年会議所**だけでなく他団体と協力していく必要があります。
6

7 まずは、諸先輩方が1985年から継続されてきた姉妹JCである社団法人台南市新營
8 国際青年商會との交流が37年目を迎え、**佐賀青年会議所一同総力を挙げ、心からのおも**
9 **てなしをすることで、新營JCとこれまで以上の繋がりを強固なものにします。**また、新
10 營JCと**佐賀青年会議所**の交流だけでなく他団体を含めた交流をするため、合同で交流で
11 きる場を提供することで、**対外に向けて佐賀青年会議所のさらなる魅力を発信します。**さ
12 らに、日本の文化や歴史に触れて頂くために、佐賀の観光資源や伝統文化を体験すること
13 で、**楽しく過ごして頂きます。**災害においても被災地の情報が必要とされている物資を迅
14 速かつ効率の良い行動がとれるように、新たなガイドラインを創出し、**佐賀青年会議所が**
15 **率先して他団体と連携を取りあえる関係性を創ります。**

16 混沌とした世界情勢の中で、国際交流を通じ他団体との連携を深め、改めてこの地元佐
17 賀の素晴らしさ、人と人との出会いに感謝し、個人の成長につなげるとともに、**現在（い**
18 **ま）を生き抜き次代へつないで参ります。**

[事業計画]

- 22 1. 新營JC受入れ・会務交流会議の企画・運営（9月）
- 23 2. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 24 3. 例会の企画・運営（3月）
- 25 4. ASPAC（台湾／台中）参加者への支援（6月）
- 26 5. JCI世界会議（南アフリカ／ヨハネスブルク）参加者への支援（11月）
- 27 6. **会員拡大 拡大目標 委員会5名（通年）**